

伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第 24 主日礼拝

2020 年 11 月 15 日

前奏：

招きのことば：詩編 30 編 5-6 節

主の慈しみに生きる人々よ | 主に賛美の歌をうたい 聖なる御名を唱え、感謝をささげよ。
ひととき、お怒りになっても | 命を得させることを御旨としてくださる。
泣きながら夜を過ごす人にも | 喜びの歌と共に朝を迎えさせてくださる。

罪の悔い改めと赦しのことば：

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。
思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に
罪人です。神様、本当にごめんなさい。私たちは祈ります。私たちが救うため あなた
がお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。
(短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・
キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ
務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊の
お名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。 **アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、
十字架につけられ、死して葬られ、
陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天に昇り、父なる全能の神の右に座したまえり。生
ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだの
よみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、
私たちを愛し、私たちを赦し、私たちを新しくしてくださることを感謝します。

私たちはすぐに人生の厳しさを嘆きます。世の中を責め、そして自分を赦そうとしません。そしてあなたが私自身を作り変えてくださることを忘れます。すぐる一週間の歩みを、あなたはお支えくださいました。今朝もあなたのみ言葉を慕って集まっています。主よ、どうぞ私たちにお語りください。

やがて私たちを天の御国に導いてくださるイエス様。私たちのために十字架でいのちをあたえてくださって、私たちのようなものも天の御国に導いてくださることを感謝いたします。またそれまでの間、聖霊が私たちの前にみ言葉をもってイエス様を指し示してくださって、古い私に死に、新しいいのちに生かしてくださることを感謝いたします。

主よ、今週も私たちを導いてください。私たちは神さまからたくさんの賜物をいただき、お預かりしています。神さまに目をあげ、家庭で、社会で、教会で私たちに託された使命を感謝し、神さまを恐れ愛し信頼して、今週も人々の役に立つ一週間となりますように、そのために喜んで自分を鍛える一週間となりますように。互いに愛し合い、高めあう一週間となりますように。新型コロナ・ウィルスの感染は縮小の気配がありません。緊張感を保ちながら、その中でも御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして安心して生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：第1テサロニケ5章1-11節

兄弟たち、その時と時期についてあなたがたには書き記す必要はありません。盗人が夜やって来るように、主の日は来るということを、あなたがた自身よく知っているからです。人々が「無事だ。安全だ」と言っているそのやさきに、突然、破滅が襲うのです。ちょうど妊婦に産みの苦しみがやって来るのと同じで、決してそれから逃れられません。

しかし、兄弟たち、あなたがたは暗闇の中にいるわけではありません。ですから、主の日が、盗人のように突然あなたがたを襲うことはありません。あなたがたはすべて光の子、昼の子だからです。わたしたちは、夜にも暗闇にも属していません。

従って、ほかの人々のように眠っていないで、目を覚まし、身を慎んでいきましょう。眠る者は夜眠り、酒に酔う者は夜酔います。しかし、わたしたちは昼に属していますから、信仰と愛を胸当てとして着け、救いの希望を兜としてかぶり、身を慎んでいきましょう。

神は、わたしたちを怒りに定められたのではなく、わたしたちの主イエス・キリストによる救いにあずからせるように定められたのです。主は、わたしたちのために死なれましたが、それは、わたしたちが、目覚めていても眠っていても、主と共に生きようになるためです。ですから、あなたがたは、現にそうしているように、励まし合い、お互いの向上に心がけなさい。

福音書朗読：マタイによる福音書25章14-30節

「天の国はまた次のようにたとえられる。ある人が旅行に出かけるとき、僕たちを呼んで、自分の財産を預けた。それぞれの力に応じて、一人には五タラントン、一人には二タラントン、もう一人には一タラントンを預けて旅に出かけた。

早速、五タラントン預かった者は出て行き、それで商売をして、ほかに五タラントンをもうけた。同じように、二タラントン預かった者も、ほかに二タラントンをもうけた。しかし、一タラントン預かった者は、出て行って穴を掘り、主人の金を隠しておいた。

さて、かなり日がたってから、僕たちの主人が帰って来て、彼らと清算を始めた。まず、五タラントン預かった者が進み出て、ほかの五タラントンを差し出して言った。『御主人様、五タラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかに五タラントンもうけました。』主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』次に、二タラントン預かった者も進み出て言った。『御主人様、二タラントンお預けになりましたが、御覧ください。ほかに二タラントンもうけました。』主人は言った。『忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。』

ところで、一タラントン預かった者も進み出て言った。『御主人様、あなたは時かない所から刈り取り、散らさない所からかき集められる厳しい方だと知っていましたので、恐ろしくなり、出かけて行って、あなたのタラントンを地の中に隠しておきました。御覧ください。これがあなたのお金です。』主人は答えた。『怠け者の悪い僕だ。わたしが時かない所から刈り取り、散らさない所からかき集めることを知っていたのか。それなら、わたしの金を銀行に入れておくべきであった。そうしておけば、帰って来たとき、利息付きで返してもらえたのに。さあ、そのタラントンをこの男から取り上げて、十タラントン持っている者に与えよ。だれでも持っている人は更に与えられて豊かになるが、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。この役に立たない僕を外の暗闇に追い出せ。そこで泣きわめいて歯ざしりするだろう。』

讚美歌 352 番

- 1 あめなるよろこび こよなき愛を、たずさえくだれる わが君イエスよ、
すくいのみぐみを あらわにしめし、いやしきこの身に やどらせたまえ。
- 2 いのちをあたうる 主よ、とどまりて、われらの心を とこ宮となし、
あしたにゆうべに 祈りをささげ、たたえの歌をば 歌わせたまえ。
- 3 われらをあらたに つくりきよめて、さかえにさかえを いや増しくわえ、
みくにに昇りて み前に伏(ふ)す日、 み顔の光を 映(うつ)させたまえ。 **アーメン**

説教：「少しのものに忠実に」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

私たちの生きがいは、どこにあるのでしょうか。それは神さまを喜び、人々に仕えることにあります。それは、神さまが私たちひとりひとりを愛してくださっていることを受け取り、神さまの恵みに精いっぱいお応えして生きることです。

確かに私たちは罪深い自分や、人々や、世界にがっかりします。寂しさに襲われるとき、どうにもならない深い苦しみや悩みもあります。しかしイエス様は、問題の本質である罪をご自分で償ってくださって、すべてを新しくしてくださいます。私たちはイエス様によって赦され、新しいいのちをいただいて、この人生を生き生きと喜びをもって歩み切ります。必要な助けを与え、必要な人を送ってください、不思議に導いてくださいます。

神さまは私たちひとりひとりに賜物を与え、持ち場を与えてくださっています。共に神様を喜び、人々に仕える兄弟姉妹を与えてくださっています。また、そのようにして私たちの新しいいのちは、成長していきます。課題の多い毎日ですが、目をイエス様に向けると、私たちのために罪を引き受けてつぐなってくださいました赦し主のイエス様が見えます。また、イエス様は十字架にかかったままではなくよみがえって私と共にいてくださり、日々の歩みを支えてくださっています。なんと恵まれたことでしょうか。なんと心強いことでしょうか。

今日読まれた聖書のメッセージは喜びということがテーマとなっています。イエス様はやがてもう一度来てくださって今の世を終わらせ、新しい世をもたらしてくださいますが、それまでの間、私たちが喜びをもって、生きがいをもって歩むことができるように、お語りくださっています。イエス様がやがて来てくださるときはいつのことか私たちにはわかりません。私たちのこの世のいのちが終わる方が早いかもしれません。イエス様を信じて、罪の赦しをいただいていると、死んだ後の神さまのさばきにはイエス様が弁護してくださいますから安心です。天の御国は喜びで満ちているところです。そればかりか、天の御国に迎えられる私たちのこの世での毎日喜びにあふれた、生きがいのあるものです。

主人が3人の僕たちを集め、これから旅に出るので一人一人に財産を預ける、と言いました。同じものを預けたのではなく、それぞれの力に応じて5タラント、2タラント、1タラントをあずけました。1タラントという単位は、6000デナリです。1デナリは一日分の給与に相当する金額です。一年に300日働いたとしても20年分の給与に相当するのが1タラントです。それは6000万円くらいでしょうか。1タラントの財産をあずかった人も5タラントの人と比べると少ないように見えますが、それでも主人の相当な信頼を得て、財産をあずかっていますね。私たちの人生を考えてみましょう。あなたは何タラントを預かった僕の方でしょうか。たくさんの才能や生かせる環境を与えられている人もいます。そうでない人もいます。ご自分ではどのように見ておられるでしょうか。人と比べてばかりいると、自分は何もできない、無

力なものだ、と思いがちです。でも、与えられている才能や環境を数えていくと、とてもおおきなものを神さまから信頼をうけてあずかっていることがわかります。あなたはタラントをあずかって、毎日をどのように生きておられるでしょうか。

僕たちは主人から財産を託されて、考えました。5タラントと2タラントの人は、すぐに出かけて行って、商売をしました。商売はどんなに一生懸命に働いても必ずうまくいくとは限りません。彼らはリスクを承知で商売をしたのです。1タラントの人は土に埋めて、間違ってもあずかったお金を減らさないようにと考えました。態度の違いは明らかですね。

主人はだいぶたってから帰ってきて清算をしました。5タラントの人はもう5タラント、2タラントの人はもう2タラント儲けていました。ふたりはそれぞれに、ご主人様、ここにあずかったものとそれによってふえたものがあります、と報告したのです。主人は5タラントのしもべにも、2タラントのしもべにも同じように答えています。「忠実な良い僕だ。よくやった。お前は少しのものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。」1タラントのしもべは叱られました。怠け者のわるい僕だ、といわれました。

僕たちの違いはどこにあったのでしょうか。どうしてふたりはリスク承知で商売をし、増やすことができたのでしょうか。どうしてひとり土に埋めたのでしょうか。

第1に、主人の信頼に応えようと考えたかどうかの違いがあります。1タラントの人は主人は働かせるだけ働かせて取り立てをする厳しい人だから、間違ってももとで減らしてしまったらたいへんなことになる、と恐れていました。失敗したらおしまいだ、と思ったのです。商売は難しいし、自分にも力がない、と思ったのです。5タラントと2タラントの人はリスク覚悟で、主人から託された財産を喜び、精いっぱい生かして用いました。商売が難しいことはわかっていましたし、失敗のリスクもあることを知っていましたが、主人に喜んでもらえるかもしれない、と期待して働きました。財産をあずかったらさっそく取り掛かったと書かれています。与えられた時間も無駄にしなかったのです。

神さまは私たちに家庭で、社会で、教会で、いろいろな使命を見せてくださいます。果たすべき役割、頼まれたことを私たちは果たしていきます。神さまを、いぢわるで厳しい方、と思っていいたら私たちはだれからも責められないようにしよう、という動機で役目を果たします。あとの人が、私のしたことを悪く言わないようにしようという動機です。神さまが私の力をご存じで、力に応じていまの役割を託してくださっていると思っていいたら、精いっぱい頭を使い、心を配り、力を尽くして、取り組んでいきます。自分のプライドのためではなく、人から責められないように、という自分を守る心からではなく、私を愛して導いてくださる神さまの

信頼にこたえていきたい、という聖なる動機から、頼まれていないところまでも行き届き、先を見越して手配をして、喜びをもって工夫を重ねます。

創世記にアブラハムの命を受けて息子イサクの嫁探しに行った僕がいましたが、ある村について共同の井戸のそばにいとリベカさんが来たので水を汲んでほしいと頼んだということが記されています。リベカさんは喜んですぐに水を用意しましたが、ひとこと添えて、お乗りになってきた動物にもお水をさしあげましょうか、と心配りを見せました。これが僕の心をうってイサクのお嫁さんとなってください、とお願いしたと書かれています。羊飼いだっただビデは託された仕事とともに豎琴を練習していました。この豎琴の音がサウル王の慰めになりました。1マイル行けと言われたら2マイル行きなさい、とイエス様もおっしゃいました。与えられた仕事を喜んですることは当然のことですが、それを超えて心配りをする喜び、わたしに何をさせていただいたらいいだろうか、といつも考えている姿が、働きそのものへの忠実さを超えて主人の信頼にこたえたいというふたりの動機でした。

第2の違いは何でしょうか。その主人のことを、確かに権威をもった厳しい人だけれども、僕と喜びをともにしてくれる愛にあふれた方だと信頼していかどうかの違いです。1 タラントの僕は、主人を、あなたは時かない所から刈り取り、散らさない所からかき集められる厳しい方と言っています。だからこわくて、リスクをとれなかったというのでした。あなたは神さまをどのように信じておられますか。あなたの罪を責めて、あなたに償いをさせるお方でしょうか。それなら、神さまの前では委縮して、ちぢこまって生きていかなければなりません。しかし、神さまは私たちの罪もけがれもすべてご存じで、その私たちを赦して新しいものとするためにイエス様をお遣わしくださって、わたしの償いを果たし、そして私のすべてを赦し受け入れて、新しいものとしてくださるお方です。イエス様はそのために十字架にかかってくださいました。イエス様はそのためによみがえってくださいました。そのイエス様にあずかる洗礼を受け、聖餐にあずかり、罪の赦しの宣言を聞いて私たちは日々生かされています。確かな確かな主の愛にだけ全ての望みをかけています。

主人である神さまは確かに罪を見逃さない厳しい方です。正しい方です。しかし私の罪を正しくイエス様の上で裁いてくださって私たちを正しく赦してくださる愛なる方です。私たちの思いを超えた神さまの愛は、私たちに語られる聖書のみ言葉によって明らかです。十字架のもとで、神さまから確かに愛していただいている自分を感謝しようではありませんか。

そして、この世にあって神さまがわたしに託して下さっている使命に、心をこめて取り組んでいこうではありませんか。求められていること以上に、心配りをして、今のことだけではなく将来の備えも見通して、人々の喜びのために取り組んでいくところに、神さまがくださる喜

びや生きがいがあります。託された働きを見直して、小さなことに忠実に歩む喜びです。主人は共に喜んでくださいます。神さまと共に神さまの喜びを喜びとさせていただくのですね。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン。

讃美歌 239 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 さまよう人々、たちかえりて、あめなる御国の 父を見よや。
罪とが くやめる ころころは、父より与うる たまものなれ。
- 2 さまよう人々、たちかえりて、父なるみかみの みまえにゆき、
まことの悔(くい)をば いいあわせ、世人(よびと)は知らねど 知りたまえり。
- 3 さまよう人々、たちかえりて、主イエスの御許(みもと)に とくひれふせ。
わが主は憐れみ、み手をのべて、こぼるる涙を 拭(ぬぐ)いたまわん。
- 4 さまよう人々、たちかえりて、十字架の上なる イエスを見よや。
血しおのしたたる み手をひろげ、「生命(いのち)をうけよ」と 招きたもう。アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン

頌栄：讃美歌 541 番

父、御子、御霊のおお御神(みかみ)に ときわに絶えせず み栄えあれ み栄えあれ。アーメン

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。アーメン

後奏